

平成 24 年度第 2 回 これからの学術情報システム構築検討委員会議事次第

日 時：平成 24 年 8 月 24 日(金) : 10:00－12:00

場 所：学術総合センター 20 階講義室 1

出席者：配付資料参照

議事

1. 前回議事要旨（案）確認 (資料 1)
2. 第 4 回連携・協力推進会議報告 (資料 2)
3. ERDB プロトタイプ構築プロジェクトの進捗報告 (資料 3)
4. 本委員会の課題整理 (資料 4)
5. 今後の進め方 (資料 5)

配付資料

委員名簿

1. 平成 24 年度 第 1 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨（案）
- 2－1. 第 4 回連携・協力推進会議議事次第
- 2－2. これからの学術情報システム構築検討委員会規程
3. ERDB プロトタイプ構築プロジェクトの進捗報告
- 4－1. 本委員会の検討課題
- 4－2. 概念モデル
- 4－3. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理
5. 今後のスケジュール（案）

これからの学術情報システム構築検討委員会委員名簿

氏 名	所属・役職	備考
佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授	委員長
栃谷 泰文	京都大学附属図書館 事務部長	
加藤 さつき	東京外国語大学 学術情報課 資料サービス係長	
久保田 壮活	東京大学附属図書館 総務課 主査	
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査	
関 秀行	慶應義塾大学メディアセンター本部 課長	
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務副部長兼総務課長	
菊池 亮一	明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務長	
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長	
鈴木 秀樹	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長	
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 専門員	記録

平成 24 年度 第 1 回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：平成 24 年 6 月 7 日（火）15：00～17：00

2. 場所：国立情報学研究所 12 階 会議室

3. 出席者：

（委員）

佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授（本委員会委員長）
柄谷 泰文	京都大学附属図書館 事務部長
加藤 さつき	東京外国語大学 学術情報課 資料サービス係長
久保田 壮活	東京大学附属図書館 総務課 主査
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査
関 秀行	慶應義塾大学メディアセンター本部 課長
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務副部長兼総務課長
菊池 亮一	明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務長
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長
鈴木 秀樹	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 専門員

（陪席）

関川 雅彦	連携・協力推進会議 委員長館 筑波大学附属図書館 副館長
尾城 孝一	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長
森 いづみ	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

<配布資料>

平成 24 年度第 1 回次世代学術情報基盤構築検討委員会（仮称）名簿

- 1-1. 図書館と NII の連携・協力の枠組み
- 1-2. 次世代学術情報システム構築検討委員会（仮称）規程（案）
- 1-3. 本委員会設置の経緯
- 2-1. 国立大学図書館協会学術情報委員会学術情報システム検討小委員会報告書
- 2-2. 電子的学術情報資源を中心とする新たな基盤構築に向けた構想（学術コンテンツ運営・連携本部 図書館連携作業部会報告書）
- 3-1. 国立情報学研究所のこれまでの取り組み
- 3-2. ERDB 構築事業
4. 本委員会のミッション（案）
5. 今後のスケジュール案

<参考資料>

1. 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書
2. 連携・協力推進会議設置要綱

議事に先立ち、関川筑波大学附属図書館副館長より、本委員会は連携・協力推進会議の下に設置され、現在その委員長館を筑波大学が担当していることから、委員長選出までの議事は、関川副館長が進行する旨の説明があった。

4. 議事：

(1) 自己紹介

各委員及び陪席者より自己紹介があった。

(2) 委員会設置経緯説明

鈴木委員より、資料 1-1 に基づき、本委員会設置の経緯について以下の説明があった。

- 平成 23 年度に、国立大学図書館協会、並びに、国立情報学研究所から関連する 2 つの報告書が発行された。
- 平成 23 年度第 2 回連携・協力推進会議（平成 24 年 2 月 8 日）において、「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化を担う委員会」の設置が承認された。
- 本来であれば、連携・推進会議で先に審議すべきところであるが、活動は前倒して開始するものである。

関川副館長より、NII 側も大学図書館側も、従来のシステムについて課題意識を共有していることが明らかになったため、この場で企画立案、方向性を検討していただくことが、本委員会に求められるミッションである旨の補足があった。

(3) 委員長選出

資料 1-2「次世代学術情報システム構築検討委員会（仮称）規程（案）」に基づき、互選により委員長として佐藤委員を選出した。

(4) 委員会の名称について

佐藤委員長の司会により、委員会の名称について審議を行った。

- 仮称にある「次世代」という言葉は、これまでも様々な場面で使われて来た。言葉から主体性が感じられない面もある。
- 「これからの学術情報システム構築検討委員会」という名称はどうか。自ら推進する感じが出るのではないか。ひらがなの名称は珍しいが、いかがか。
 - システムの構築をする委員会なのか。
 - ここでいうシステムは、コンピュータシステムだけではなく、運用全般を含む。
 - システムを狭義の意味で取られるのはよくないだろう。
 - 学術情報基盤というのはいかがか。
 - 「学術情報システム」という言葉は、NII 設置の経緯である学術審議会の答申「今後における学術情報システムの在り方について」に基づく用語なので、そのまま使いたい。

以上の議論を経て、本委員会の正式名称を「これからの学術情報システム構築検討委員会」とし、平成 24 年度第 1 回連携・推進会議に報告することとなった。

事務局より、委嘱時と委員会の名称が変わったことにより、手続きが必要な場合は対応する旨の連絡があった。

(5) 国立大学図書館協会、並びに、国立情報学研究所の各報告書の概要説明

栃谷委員より、資料 2-1 に基づき「国立大学図書館協会学術情報委員会学術情報システム検討小委員会報告書」の概要説明があった。

- 現在の「学術情報システム」は、理念構築から 30 年以上が経過し、現状とかい離している。1) 電子ジャーナル所在情報の共有、2) 大学図書館システム、3) 学術情報システムを支える組織と人材育成の 3 つの観点から課題を取りまとめた。
- 「電子出版物の総合目録データベース」の必要性を提案したが、電子出版物の利用はライセンス契約によるものであり、利用に制約がある契約情報の総合目録に意味があるのかという議論があった。OCLC のガイドライン (2011.7) によると、電子的資料も登録対象になっている。目先の情報共有という物質的利益だけではなく、学術情報資源全体を考えるために必要と判断した。大きな論点になるだろう。
- 横井慶子氏の論文「電子ジャーナル提供を阻害する要因 大学図書館への示唆」を報告書の補足として紹介。電子ジャーナルのトランスファー問題をカバーするためには、大学図書館が総合目録を維持する必要があると再認識した。

引き続き、鈴木委員より、資料 2-2 に基づき「子的学術情報資源を中心とする新たな基盤構築に向けた構想 (学術コンテンツ運営・連携本部 図書館連携作業部会報告書)」の概要説明があった。

- 『次世代目録所在情報サービスの在り方について (最終報告)』(2009.3) 以降の内外の状況変化を受け、「電子情報資源の急速な拡大」、「目録情報の価値の変化と Linked Open Data の展開」、「電子情報資源の確保とコレクション構築」、「統合的図書館システム」の 4 つの観点から、新たな基盤の必要性について方向性を整理。
- 国内外の関連機関の動向も参考にしつつ、1) 電子情報資源の確保、2) メタデータのオープン化と相互接続性 (相互運用性) の確保、3) 統合的発見環境とシステム基盤の 3 点を「今後の基盤構築の方向性および原則」としてまとめた。
- 基盤整備にあたっては「持続性」を確保できる体制が不可欠。NII が集中して処理を行う部分と、大学図書館と NII の共同事業として行う部分があるだろう。国内外の組織との協力と分担、世界への貢献を視野に入れることも肝要。
- 今後、用語集を公開する予定である。

以上の報告を受け、2 つの報告書の内容をベースに、議論を進めることとした。

(6) 国立情報学研究所のこれまでの取り組み

高橋委員より、資料 3 に基づき、国立情報学研究所のこれまでの取り組みについて概要説明があった。

- 『次世代目録所在情報サービスの在り方について (最終報告)』で提示された 3 つの課題のうち、「電子情報資源への対応」については、電子情報資源の管理データベース (ERDB) 構築事業の検討に着手した。電子情報資源の管理業務支援と情報アクセス支援を目標としている。
- 大学図書館及び JUSTICE の協力を得て、平成 24 年 4 月に ERDB プロトタイプ構築プロジェクトを開始した。プロジェクトの目的は、プロトタイプの構築とその検証を通じて ERDB 開発に必要な情報を収集することである。

以上の説明を受け、NII の取り組みについても、本委員会で取り上げることとなった。

(7) 委員会の活動について

佐藤委員長より、資料 4 に基づき、本委員会のミッション（案）について説明があり、以下の議論を行った。

- 2 つの報告書には共通部分と固有の部分がある。課題意識は共有しているが方法論に違いがあるのですり合わせが必要。共通する提言の実現に向けた共同事業計画を作成するため、まずは課題の洗い出し整理をすることがミッションである。
- 「総合目録」は所蔵を明らかにするもの。OA のものや、PDA (Patron-Driven Acquisition) で図書館がまだアクセス契約をしていないものも対象に入ること考慮し、従来の目録の概念に縛られないよう、「電子情報資源を含む学術情報の総合的発見・アクセス環境の整備」という案とした。
 - 目録ではなくディスカバリーだという趣旨はわかるが、範囲をどう設けるのか。限られたマンパワーの中で、プライオリティを考える必要がある。
- 総合目録 (NACSIS-CAT) に電子リソースの登録が定着しなかったのは、現物が無いために受入をきっかけとしたワークフローが発生しなかったことが一因。
 - 書誌所蔵を手で維持管理することは困難。
 - 所蔵データについても、物理的所蔵と異なり、アクセス情報は変わりうるもの。
 - 限られたマンパワーの中で実現するための方法論としては、NII でできるだけ自動化すること、他との連携で書誌データを持ってくるのが必須だろう。
- 対象の捉え方は重要。探す人にとって境界線はないに等しいが、NDL や OCLC でも同じことをやっている中で、これまでの延長線上で面積を広げる方法では立ち行かないのではないかと。
 - Google その他ができないことをやるのではないかと。有償で受入れているコンテンツは必須。EJ はタイトル数が限られている。電子ブックは膨大になる。無償のリソースはその外ではないかと。
 - 粒度の問題がある。電子ブックのチャプター単位のデータを考えると、有償のものに限ったとしても維持するのは大変。
 - PDA は枠組みに入れなくていいのか。
 - 結局はプライオリティだろう。何を中核にしてくのか。
- 国内の電子ブックについて。図書館向けのプロバイダーが極めて脆弱。出版デジタル機構では図書館が意識されている。電子ブックを図書館で契約するためには、図書館向けのプロバイダー育成する必要がある。
 - 積極的な働きかけするとすれば、メタデータの提供とセットで考える。
 - メタデータを大量にもらうとして、誰が処理するのか。受け皿はどうするか。
- NII のシステムを作る立場から。今後、例えば、出版デジタル機構のメタデータを CiNii で受け入れて検索出来るようにすることは可能だろうが、その正当性をどう担保するのか。技術的には可能なことでも対象範囲を決めなければならない。境界線はグラデーションになり、コストパフォーマンスは悪くなる。正当性がはっきりすれば、コストを抑えつつ、技術的に解決することはできる。
- 早稲田大では EJ や電子ブックの購読時に MARC も購入している。目録としてみれ

ば質の劣るデータかもしれないが、MARCは有料で売っている商品でもある。

- 書誌を作る世界が図書館外に大きく広がった。総合目録という範囲は超えなければならない。
 - 極端な話、EJの契約状況が共有できないことを解決するために、大手出版者から契約データをもらってマージするだけでいいのか。
 - 実は、出版社自身タイトルリストを維持していないという状況。この先、困ったことになるだろう。
- 正当性について別の観点から確認したい。NACSIS-CATの在り方について運営方針の変更やデータの活用などを相談し、決定する場が必要。これまでは学術コンテンツ運営・連携本部だったが、今後は、本委員会がそのようなミッションを担うのか。例えばVIAFにデータ提供することの是非等。
 - 国公私の枠組みで委員会を立ち上げたのは、コレクション構築、それに対するメタデータについて共同運営の枠組みで議論するため。提案は本委員会が行うが、最終的にどこで決めるのかは要検討だろう。
- 電子的コレクション形成を視野にいれつつ、遡及入力事業の見直しを考えている。本委員会では、デジタイズの問題まで扱うのか、デジタイズされたもののメタデータを考えるのか。
 - 当面付託されたのはメタデータ。コレクション形成そのものは、議論するのは構わないが、決める場ではないのではないか。
 - 本委員会は、様々な課題の交通整理をする場でもあるのではないかと。この場で議論し結論を出すものと、他の受け皿に廻すものと両にらみになるだろう。
- メタデータの外部提供はそんなに難しいのか。
 - 方針が決まっていないから動けないだけではないか。今後、外部データをより積極的に取り入れてシステム構築をする議論をしていく中で、データをパートナーする話も出てくる。本委員会で取り上げ、項目として整理すべきではないか。
 - メタデータに著作権は存在しない。個別データに権利は主張しないが、全体としては主張したい。例えばヨーロッパの動きで、OCLCのデータを全てコピーされたらOCLCは潰れてしまう。
 - 戦略がないままには出せない。では戦略はどこで考えるのか。
 - 本委員会のミッションを遂行する上でデータ交換できない場合に困るのは自分達。外部へのデータ提供に関する方針は、この場で取り上げるべきだろう。

以上の議論を経て、問題意識は共有できたので次回からは課題の整理を行う。取り扱うコンテンツの対象範囲については引き続き検討が必要ということとなった。

(8) 委員会の活動について

高橋委員より、資料5に基づき、今後のスケジュール(案)について、親委員会への報告のタイミングをにらみつつ、とりあえず年度内に4回開催したい。必要に応じて追加があり得る旨の説明があった。

- 次回は対象範囲を再度議論する。また、課題の洗い出しをして、出てきた課題を交通整理し、具体的な作業の必要があれば割り振りたい。
- 課題は、例えば書誌データの持ち方について「電子と紙を一つの書誌に付けている

事例があるが、原則や関係性の定義が必要」といったものなどが考えられる。

- 事務局としては、まずは全委員から課題を持ち寄ることをお願いしたい。
- ERDB のプロジェクトと本委員会の関係はどうなるのか。
 - 現時点では、ERDB プロジェクトは NII が主体となって実施する位置付け。洗い出しの段階では、課題は出来るだけ多く挙げておきたいので、ERDB プロジェクトとの関係はあまり気にする必要はないだろう。
 - ERDB プロジェクトの進捗は、本委員会にも適宜報告をする。

以上の議論を踏まえ、課題の持ち寄りについては本委員会の ML を作成のうえ、事務局から改めて連絡することとした。

最後に、本委員会の議事メモ作成は、初回は陪席者の NII・森副課長が担当し、次回以降は若手委員（加藤委員、久保田委員、高橋委員）が持ち回りで担当することとした。

以上

第4回 連携・協力推進会議 議事次第

日 時：平成24年7月20日（金）15:00～17:00

場 所：国立情報学研究所 20階講義室 1,2

出席者：次頁参照

議 事：

1. 前回議事要旨案について
2. 国立情報学研究所 学術コンテンツ関連事業の活動状況（報告）
3. 大学図書館コンソーシアム連合 運営委員会の活動状況（報告）
4. 大学図書館コンソーシアム連合の持続性確保に向けた新要項及び会費について（審議）
5. これからの学術情報システム構築検討委員会について（審議）
6. SCOAP³の進捗と今後の進め方について（審議）
7. 機関リポジトリの今後の推進について（審議）
8. その他
arXiv.org の支援について（報告）

配布資料

1. 平成23年度第2回連携・協力推進会議議事要旨（案）
2. 学術コンテンツ関連事業の活動状況
- 3-1. 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の活動報告（平成23年度）
- 3-2. 平成24年度 JUSTICE 活動スケジュール
- 3-3. 平成23年度第6回 大学図書館コンソーシアム連合運営委員会 議事次第
- 3-4. 平成24年度第1回 大学図書館コンソーシアム連合運営委員会 議事次第
- 3-5. 平成24年度第2回 大学図書館コンソーシアム連合運営委員会 議事次第
- 4-1. 大学図書館コンソーシアム連合要項（案）
- 4-2. 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の会費について（案）
- 4-3. JUSTICE 会費案・要項案に対するQ&A（案）
- 5-1. これからの学術情報システム構築検討委員会規程（案）
- 5-2. これからの学術システム構築検討委員会 委員名簿（案）
- 5-3. 平成24年度第1回 次世代学術情報基盤構築検討委員会（仮称） 議事次第
- 6-1. SCOAP³の今後の検討体制について（案）
- 6-2. Expression of interest to join SCOAP³
- 6-3. SCOAP³のモデル
- 6-4. TENDERING PROCEDURE IT- 3827/IT
- 6-5. SCOAP³ Journals
7. 機関リポジトリの今後の推進について（案）

参考資料

1. NII と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書
2. 連携・協力推進会議設置要綱
3. 大学図書館コンソーシアム連合運営委員会規程
4. 「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について（案）」

これからの学術情報システム構築検討委員会規程

平成24年7月20日

制定

(設置)

第1条 連携・協力推進会議の下に、これからの学術システム構築検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、協定書の第2条第1項に掲げる事項のうち、(3)「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項を企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進することを目的とする。さらに、同項の(4)「学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成」および(5)「学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進」について、(3)に関連するものを含むものとする。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 国公立大学図書館の職員
- 二 国立情報学研究所の職員
- 三 その他連携・協力推進会議の委員長が必要と認めた者

2 委員は、連携・協力推進会議の委員長が委嘱する。

3 第2条の目的を達成するために、必要に応じて委員会の下に協力員を置くことができる。協力員は第3条第1項に掲げる者とし、委員会が指名し、連携・協力推進会議の委員長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員および協力員の任期は、8月1日から翌年7月31日までの1年間とする。

ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって選出する。

2 委員長の任期は、8月1日から翌年7月31日までの1年間とする。ただし、再任を妨げない。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会において別に定める。

付 則

この規程は、平成24年7月20日から施行する。

ERDB構築事業概要

ERDBとは、電子リソース(電子ジャーナル、電子ブック等)の書誌情報と契約情報を一元的に管理した日本国内の大学図書館等で入手可能な電子リソースの総合目録

目的

図書館の管理業務支援

図書館での電子リソース管理に必要なデータの共有を図り、業務の標準化を実現することによりコスト削減を図る。

利用者の情報アクセス支援

電子および紙の学術情報に利用者をより迅速かつ的確にナビゲートする。

課題

- ① 図書館における電子リソースの管理業務の標準化・効率化。
- ② 国内の契約情報の共有化。
- ③ 利用者のアクセス環境の改善。

事業概要

① ERDBの構築とデータ共有

- ・国内外の電子リソースの書誌・契約・利用条件・利用統計等のデータを集約するERDBを構築

② 大学図書館の業務支援

- ・ERDBと各種管理業務ツールとのインターフェイスを提供
- ・ERDBに蓄積されたデータを管理業務で活用

③ 利用者のアクセス支援

- ・ERDBに蓄積されたデータをCiNii, 図書館OPAC, A-Zリスト, リンクリゾルバ等で利用
- ・NACSIS-CATとの横断検索を提供

期待される効果

情報アクセス支援

- ① 電子と紙の学術情報へのアクセスの改善。
- ② 検索から本文への適切なナビゲーション。

管理業務支援

- ① 図書館の契約管理業務のコスト削減。
- ② 利用実態の把握による効率的な購入タイトルの選定。
- ③ 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)での価格交渉力強化。

大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー(平成22年12月)
大学図書館には、多様な学術情報への的確で効率的なアクセスを確保することが求められている。

ERDBプロトタイプ構築 プロジェクトの進捗状況

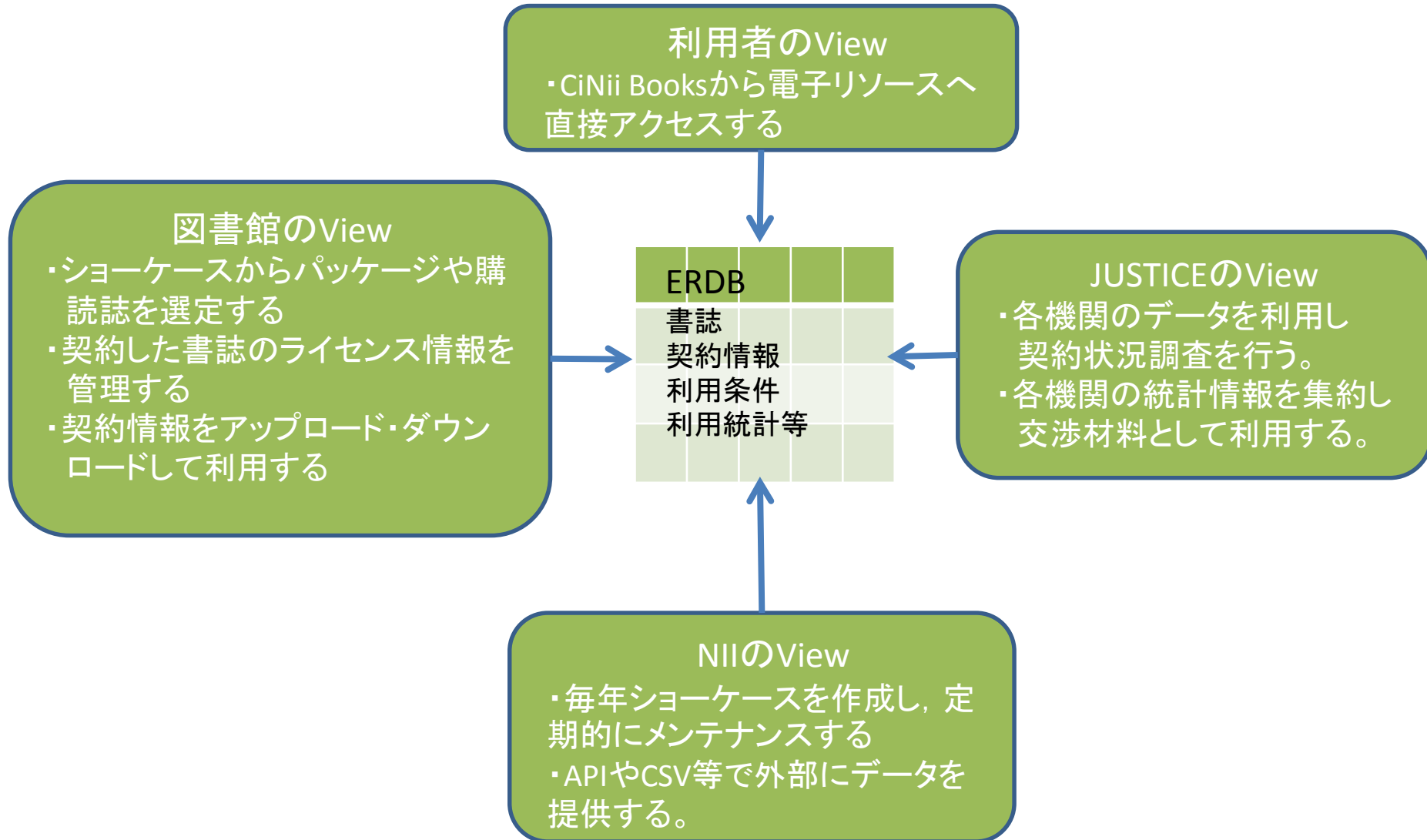
- 目的
 - － ERDBプロトタイプの構築とその検証を通じて、ERDB開発に必要な情報を収集する
- 実施体制
 - － 国立情報学研究所
 - 開発, サーバ管理, 課題整理, 連絡調整
 - － JUSTICE
 - コンソーシアムデータの収集, 統計データの分析
 - － 参加図書館(12機関)
 - データの提供, システムの利用・検証
- スケジュール
 - － 5月31日キックオフミーティング
 - － データの提供
 - － プロトタイプ第1版検証
 - － 9月27日中間報告会
 - － プロトタイプ第2版検証
 - － 統計機能検証
 - － 12月最終報告会

東北大学, 東京大学,
電気通信大学, 一橋大学,
横浜国立大学, 京都大学,
九州大学, 大阪市立大学,
学習院大学, 慶應義塾大学,
明治大学, NII

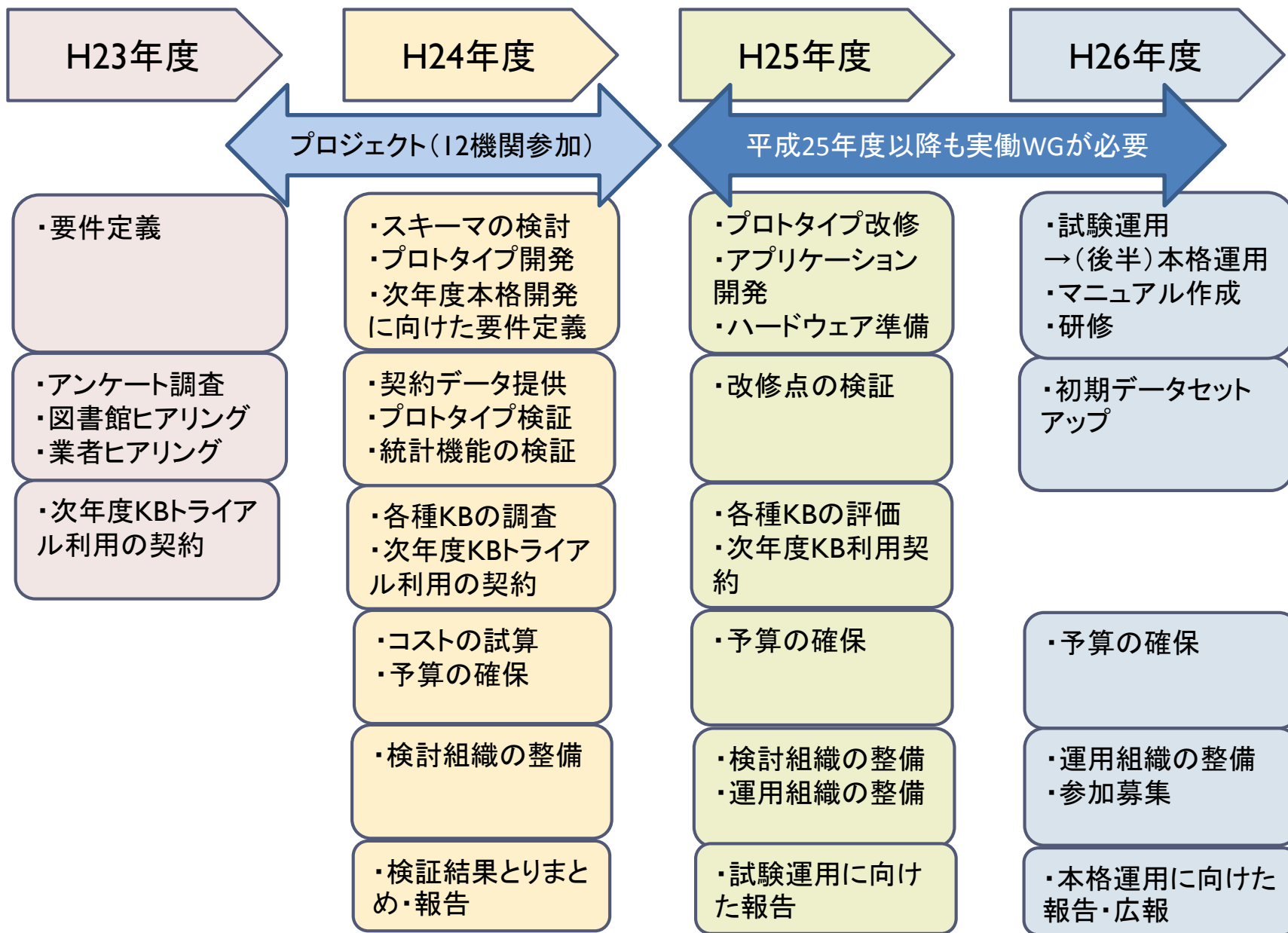
進捗状況

- ・各大学契約データ提供済み
- ・KBデータの投入済み
- ・ERDBプロトタイプ第1版リリース
- ・CiNii Books拡張機能デモ版
- ・統計機能の検証の準備開始
- ・業務フローのモデルケースとりまとめ

ERDBプロトタイプ4つのシナリオ



運用までのロードマップ(案)



本委員会の検討課題

連携・協力推進会議

これからの学術情報システム
構築検討委員会

委員会の目的:

協定書の第2条第1項に掲げる事項のうち、(3)「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項を企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進することを目的とする。さらに、同項の(4)「学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成」および(5)「学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進」について、(3)に関連するものを含むものとする。

これからの学術情報システムについて**将来構想**を企画する

個別課題の整理

ERDB
目録システム/ILL
デジタル化
メタデータ提供指針
協力体制
.....
.....

など

※将来構想の検討の主体は本委員会

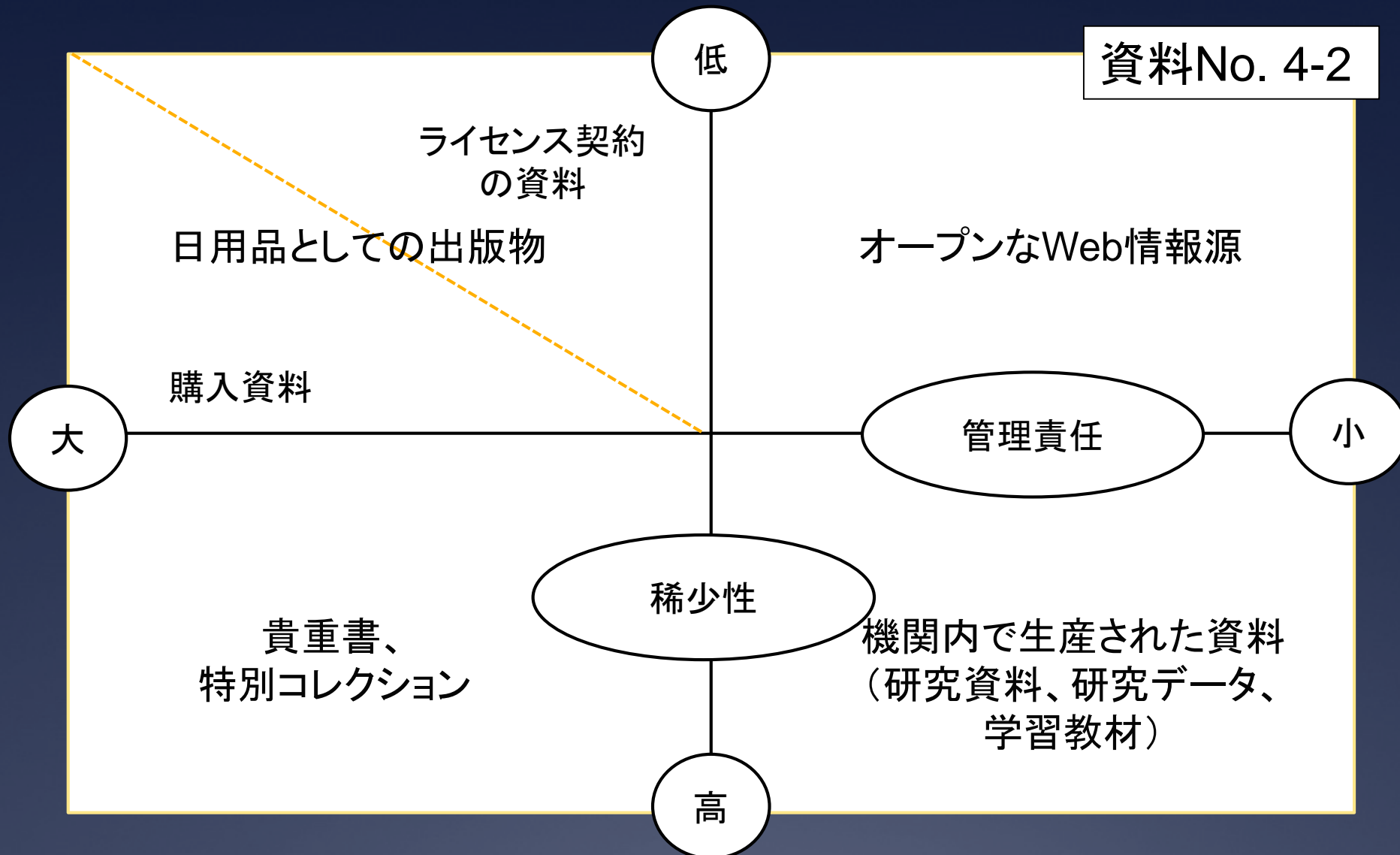
組織体制の
整備

事業計画の
立案

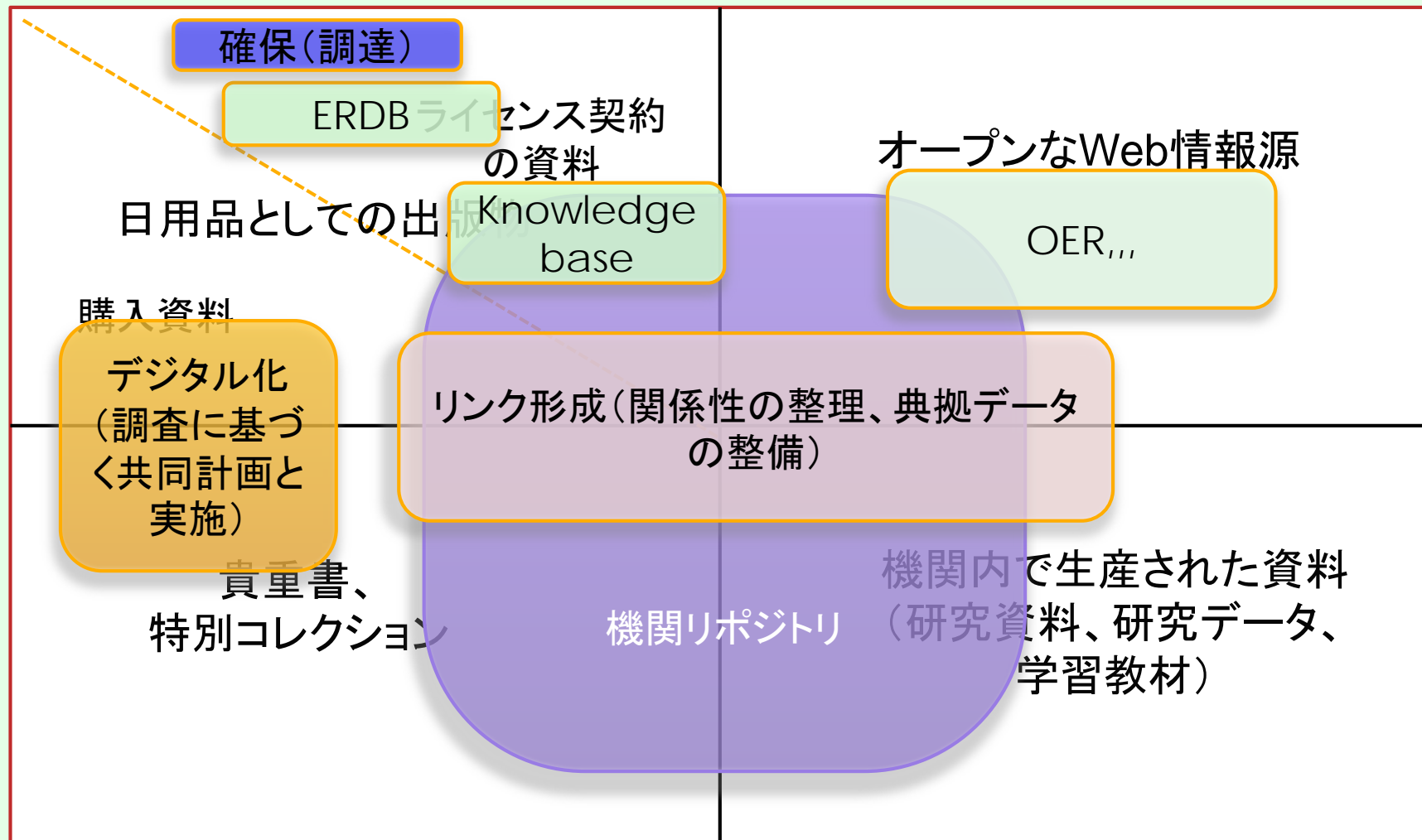
実働組織の
活動内容の
助言・承認

大学図書館
およびNIIの
共同事業を
推進する

※それぞれの課題について、共同事業の実施の主体は大学図書館およびNII



引用元: Malpas, Constance. "Scarcity and Abundance: the Cooperative Imperative in Special Collections," 53rd Annual RBMS Preconference, 20 June 2012.
available at <http://www.oclc.org/research/presentations/default.htm> (2012-07-04).



統合インデックス

	印刷体資料	電子情報資源
資料の在処	図書館内	図書館(内)外
利用対象	(多数ある)コピーの一つ	単一(唯一)の情報源
アクセス	物理的所蔵に基づく	契約や協定に基づく
作成方式	人手による確認、入力	(プログラム等による) 既存データの有効活用
目録処理	共同分担目録 (書誌データと資源の共有)	集中的作業 (典拠データ、リンク形成)
課題	データの品質レベル	データの品質レベル 永続的アクセスの管理 情報源間の関係性の整理

※各委員の記載をグルーピングして「種別」「概要」「事項」として整理し、「優先度」「方向性の検討/承認の場合(案)」「想定される実働組織(案)」を追加
※「方向性の検討/承認の場合(案)」での「本委員会(承認)」は、実働組織に調査・検討、材料集め等を依頼し、委員会では方針や事業の決定や承認を行う、という考え方で記載

種別	事項	委員名(敬称略)	方向性の検討/承認の場合(案)	想定される実働組織(案)	優先度(案)
全体	本委員会の任務と作業範囲の明確化(事業計画の作成がゴールなのか?)	和佐田	本委員会(確認)	作業内容により、既設組織への依頼、またはWGの設置	短期
全体	ロードマップの作成 ※優先順位を踏まえて整理	荘司	本委員会(検討)		中期
全体	「総合的発見環境」の定義	荘司	本委員会(検討)		中期
全体	【総合的発見環境】電子情報資源に係るILLやDDS	NII	本委員会(承認)		長期
全体	【総合的発見環境】コンテンツ発見基盤として、ERDBとNIIサービス等との統合利用環境の整備	加藤	本委員会(承認)	NII	中期
全体	【メタデータ】提供方針の策定	NII、加藤	本委員会(検討)	NII	短期
全体	【メタデータ】所有権の整理(作った者とは限らない)	荘司	本委員会(検討)	NII	短期
全体	【協力体制】大学図書館とNIIの協力体制の確立 ・課題検討の場の確立、実働部隊の確保、研修制度の見直し	NII、加藤	連携協力推進会議		中期
全体	【協力体制】NDLとの協同関係の構築	関	本委員会(提案)	NII	長期
ERDB	ERDBの目的、用途の明確化 ・電子的資料の所在(契約)図書館情報DBの構築 ・NACSIS-ILLシステムとの連携による資源共有 ・大学図書館での電子情報資源の管理業務支援	関 栃谷 栃谷 加藤	本委員会(検討)		短期
ERDB	目的・用途に適った、最も効果的な実現方法の検討(ERDBのロードマップ作成) ・JUSTICEや、参加館の情報源を活用し、データ整備にかかる費用・労力を最小化	関 関、加藤	本委員会(承認)	WG設置	短期
ERDB	持続可能性の確保(大学図書館業務の負担ではなく、業務省力化につながる仕組み)	関	本委員会(検討)		中期
ERDB	ERDBのニーズ調査	和佐田	本委員会(承認)		短期
ERDB	収録範囲の検討(および優先度づけ) ・有償資源(有償のEJ, Ebook) ・OpenAccess Journal ・ネットワーク上の無償資源(貴重書等の電子版等一定品質があるもの) ー品質判定が必要なものの扱いは?	栃谷 栃谷、加藤 栃谷、加藤 栃谷、加藤 栃谷	本委員会(承認)	WG設置	短期
ERDB	メタデータ・フォーマットの検討	荘司	本委員会(承認)	WG設置	短期
ERDB	1コンテンツに対していくつのメタデータが必要か?	荘司	本委員会(承認)	WG設置	短期
ERDB	書誌単位 ・同じタイトルでも、提供元が異なる場合(Book・ジャーナルとも) ・同じタイトルでも、巻冊が異なる場合(Book)	栃谷、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期
ERDB	書誌粒度 ・雑誌レベル・図書レベル ・論文レベル・章レベル	栃谷、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期
ERDB	メタデータの記述文法の検討 ・レコード形式 NACSIS-CAT MARC21 ONIX ?	栃谷	本委員会(承認)	WG設置	中期
ERDB	電子と紙のメタデータの扱いの確立 ・雑誌書誌単位(変遷判断基準)、初号主義vs最新主義 ・図書出版物物理単位の考え方(ebookの「出版物物理単位」?)	NII、栃谷 栃谷 栃谷	本委員会(承認)	WG設置	中期
ERDB	媒体が異なる資料間の相互関係のつけ方、ベンダーが異なる場合の相互関係づけ ・EJと紙雑誌、Ebookと紙図書 ・ベンダーが異なる同じ著作	栃谷	本委員会(承認)	WG設置	短期
ERDB	NACSIS-CATの既存データの調整	荘司、栃谷	NII	NII	中期
ERDB	KBデータの入手(外部KB・MARCの購入交渉)	NII	NII、JUSTICE	NII、JUSTICE	短期
ERDB	KBの調査(どういうデータがどこから提供されるか、入手できるのか。そのカバレッジ。) ・外部データ提供への働き掛け(特に、国内) ・外部データの限界とその対応方法の検討(EJの出版社変更、出版社の消滅、等々) ・独自に追加または新規作成すべきデータの洗い出しと作成(分担)方法 GOKbの調査	栃谷、加藤 栃谷 栃谷 栃谷、加藤 NII	本委員会(承認)	WG設置	短期
ERDB	大学からのデータ提供の成否	NII	本委員会(旗振り)		中期
ERDB	KB整備にかかるコストの試算	NII	NII・JUSTICE	NII、JUSTICE	短期
ERDB	ERDBの仕様の汎用性の確保(将来的に国外システムとのリンケージが確保できるよう、一定の標準に準拠したものに)	関	本委員会(承認)	プロトタイププロジェクトorWG設置	中期
ERDB	大学(及びJUSTICE)と協力した運営体制の確立	NII、加藤	本委員会、連携・協力推進会議(検討)		中期
ERDB	電子情報資源の統計情報	NII	本委員会(承認)	NII、JUSTICE	中期
目録システム	NACSIS-CAT/ILLの意思決定 一委員会の不在(課題の検討、決定プロセスの確立)	NII、加藤	本委員会、連携・協力推進会議(検討)		中期
目録システム	NACSIS-CAT/ILLの理念の再考	NII、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期
目録システム	共同分担目録方式の見直し	NII、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期
目録システム	NACSIS-CAT/ILLのシステムの再編 ・データ構造の見直しのシュミレーション ・CATPプロトコル見直しのシュミレーション	NII 佐藤、NII 佐藤	本委員会(承認)	WG設置	中期
目録システム	システム構成 ークラウド or 現在と同じ or 両者混交	荘司	NII	NII	中期
目録システム	書誌品質の再定義	NII、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期
目録システム	書誌はどこ(上流、中流、下流)で、誰(日本、世界)が作るのか? ・上流(コンテンツ作成者、ユニークコンテンツ所有者)、中流:取次(?)、下流:図書館 ・日本:NDL or 大学(→ NII)、世界:OCLC, LC or Publisher PDAへの対応	荘司	本委員会(承認)	WG設置	中期
目録システム	RDAへの対応	NII	本委員会(承認)	WG設置	中期
目録システム	サービスレベル(SLA)の相互確認	NII	本委員会、連携・協力推進会議(承認)	NII	中期
目録システム	目録にかかわる研修の再編	NII、加藤	本委員会、図書館連携作業部会(承認)?	WG設置	中期
目録システム	遡及入力事業の再編(遡及入力事業の継続有無)	NII	図書館連携作業部会(検討)	NII	中期
目録システム	NACSIS-CATの今後(国外DBとの互換性など)	関	本委員会(検討)		長期
目録システム	国外の日本語資料の情報基盤作りに対して、日本としてどう関わるのか?	関	本委員会(検討)		長期
デジタル化	既存資料の電子化の意義と効果の検証	NII	本委員会(承認)	WG設置	中期
デジタル化	和書、和雑誌の電子化	関	本委員会(提案)		長期
デジタル化	デジタル情報は、永続性に欠ける状況である(長期にわたり参照することが困難)	菊池	本委員会(提案)		長期
デジタル化	デジタル情報を長期保存・提供できるシステムの構築 ・マークアップデータとして作成・保存・提供(=参照)できる仕組み、またはマークアップ以外の保存方式の検討 ・永続性確保(CLOCKSS、JAIRO Cloudの可能性)	菊池 菊池 佐藤	本委員会(提案)		長期

今後のスケジュール(案)

資料No.5

回次	日時	検討内容	その後のアクション
第1回	平成24年6月7日	顔合わせ, 委員会のミッションの設定	連携・協力推進会議に報告
第2回	平成24年8月24日	課題の洗い出し, 整理	
第3回	平成24年10月	課題のまとめ 解決のための枠組み(組織・スケジュール)の検討	学術コンテンツ運営・連携本部に報告
第4回	平成25年1月	本年度のまとめ	連携・協力推進会議に報告 学術コンテンツ運営・連携本部に報告

【参考】平成24年度 会議開催予定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学術コンテンツ運営・連携本部								第1回 (予定)			第2回 (予定)	
図書館連携作業部会			第1回 (6/18)				第2回 (10/22)			第3回 (予定)		
連携・協力推進会議				第1回 (7/20)							第2回 (初旬)	
これからの学術情報システム構築検討委員会			第1回 (6/7)		第2回 (8/24)		第3回 (案)			第4回 (案)		
ERDBプロトタイプ構築プロジェクト		キックオフ (5/31)				中間 報告会 (9/27)			最終 報告会			
大学図書館コンソーシアム連合運営委員会(JUSTICE)		第1回 (5/15)		第2回 (7/20)			第3回 (下旬)			第4回 (中旬)		
国公私大学図書館協力委員会				第1回 (7/27)				第2回				
国大図協		理事会 (5/18)	総会 (6/21)					理事会				
私大図協	常任 幹事会 (4/13)				総会 (8/30)				常任 幹事会 (12/7)			
公大図協			拡大 役員会 (6/6,7)					拡大 役員会				